



馬医醍醐 後之第一

麻布大学所蔵

後之中一

一 網橋 六卷

一 梧枝落 上中下

一 十八分乘 上中下

一 管天卷

以上十三卷

網橋卷第一

一 結馬三乃不同共一を契也假令強ク契たり或は法と  
 契たり或は中法と云又云爲と小結と云他契（五ッ）以法  
 ともも法多しと契たりともも（一）と云六版張鼻吹  
 甲周下と云目の内もあとのと通程も不契と云甲爲出と  
 以法（一）以（一）と云以契（一）以（一）也

一 依勝法勝を云然契は以法と云し（一）と云目の内もあ  
 法多しと云して法多しと云契たり法（一）と云又云版小版  
 けり方七ヶ此契は法多し切病と云法多しと云契（一）と云七ヶ  
 乃契多しと云る版契と法多しと云契多しと云り計三



考と加し可也

えんきくわいのり

一 是は中葉中肉大癰也。此は病用治るもの古下結り  
 此は肉癰瘻なり。右別巻別冷牙関の序。瘻熱の序。水  
 じを葉く事。巴豆五三三 イリ糖九粒 生巴豆之粒 大をうり。一糖  
 小をうり。毛をこりりて大をうり。干粉。白也。瘻。大葉  
 十二粒。右細糸。泉取。可也。

綱橋巻草二

一 佐馬灌頂の葉と何とくも。不治然。干冷他。服此法  
 ぬる。とみ。ゆ。ね。木。て。ま。服。之。れ。ら。る。ら。言。は。し。め。ん。  
 指のり。を。魚。く。も。何。言。の。と。矣。す。の。り。を。魚。く。も。

一 取法。灌頂葉。階角。治。せ。ま。る。冷。他。と。ま。言。は。し。め。ん。  
 しく。鼻。吹。甲。する。と。冷。熱。を。治。され。し。と。い。ひ。う。て。あ。い  
 瘻。て。ある。時。灌頂葉。湯。を。何。と。く。て。尿。出。せ。去。服。し。て。そ  
 冷。の。り。を。魚。く。も。但。又。の。内。血。脈。痛。之。冷。を。通。し。て。瘻。と。見  
 へ。も。い。や。ま。ん。

一 肉癰葉。序。階角。不。治。之。穴。指。う。の。葉。肉。癰。吹。出。す。り。よ  
 づ。肉。癰。血。れ。の。り。を。魚。く。も。又。肉。癰。皮。腹。上。り。ら。る。と。血。は。後  
 ら。る。と。し。て。畫。汁。吹。て。毒。う。ら。ら。る。と。先。血。と。て。後。は。葉  
 と。何。葉。の。肉。癰。に。吹。出。す。ら。血。と。こ。ま。い。葉。こ。ま。い。葉。又。ら。る。

汁吹てひるふらふる茶の向茶ハ九腑の俞凡門に於て是  
と云ふ茶とて何畫汁と肉桂と陽乃肉桂と益母  
汁吹肉桂と陰の肉桂と益陽の肉桂と干姜川芎は  
茶と何れもさるも又陰は肉桂と何れも  
茶と何れも

一 瘵馬小瘵大。腫ものやふあるや灌頂乃茶と何れ  
不入瘵なるふ如汁

一 糖味灌頂乃茶と陰何れは浮茶と何れも  
と云ふ但糖と汁十日より内あり下何れも  
糖味する撰くは原よりふ下何れ

一 風病極く強き毒脱味何れも別は又何れも加減し  
毒脱味と不加わく

早茶の事

一 とも茶と云ふはさるはては早茶散とてさる  
扇是と云ふはさるはては早茶散とてさる

茶の大意

一 病の茶何れも時より時て又茶はさるはては  
はてはさるはては

一 胃の弱く之服茶と何れもはさるはては  
何れもはさるはては









血をこく血のまじく浮ぶと血をぬるるこくまじか  
こくこれるまじけらをもみ干毒去て毒と下向毒脱味  
何病を寒熱をし多骨髄を病とて為るる故と云こく  
了弦端扁舟の舟中をし毒脱味は只牙肉と云病と云  
一 癩病小寒熱か一見小腸乃腸より血皮肉入血道小彼  
血瘰と云こく出て血袋と云れ腸乃腸より血こりて背の血胸  
めより心より一かひ暫たもと後故を彼より登胸血と  
こくしものこくこくかる也是と癩病と云け血瘰の腸  
こく心より一かふり膽肝の胆は為海より山小膽  
起るる所のり也よ也葉は血と云る瘰と云るも持肝血之

癩病を云又血病を云也葉は氣血を云る也白物十  
錢阿仙葉十錢 右葉は人の齒付るこく一符一錢入交天符  
目こく交の目下例

一 吐血を寒熱をこく血瘰之血瘰の内を去小腸金袋を  
ゆて血胸へ今大小腸小熱氣をこり吐くと海也氣も血之百舎  
と云瘰よりこくをこくこく之葉は木をこく下車草をこく白  
木をこく云んを少右細抄をゆて下例本をこくかかろけと云  
ゆめく血をこくこくをこくこく

一 結馬之腹乃ちよりと云も大法中法の如瘰之瘰之腹よりこれ  
たこふる程葉もた包ふる也一腹細抄は小包也一

安驥集十八卷めいふたの六シテ治すと書ふる是なり

一 肉丹之煎も茶を加減して更名灌頂し茶者下と云ふはく  
多しゆと何汁也肉丹乾多煎し或吹くと肺を乾  
く、あると云ふにくしてをう治す肺を乾しらふ肉丹吹  
くも如くくしてさひめて何肉丹煎乃加減と云ふは茶  
あらしの者加減もくしてさひし茶をさくくくはあらし  
の油を粘をくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 胃虚にちこつれ加減と云ふ茶の加減もくしてさひし因茶  
如丸胃虚腸と痛扁身の皮は白く為癩てあるは向ふ  
て茶と何治し麻散自中石汁くくくくくくくくくくく

此胃虚に糖すめて下向

一 有抜るツ瘰癧ら急入刺是くくくくくくくくくくく  
くくくくくくめ茶云一たたては糖十液 卒毎散之液氣

糞者多クイリニニ液巴豆 諸色玉器 ぐくくくくくく  
あくあくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

つ交五符何但うの根はくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
いりて何くくくくの時卒通散思をくくくくくくく  
このくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 四季に中流れ治す茶は肉は為夏の時病熱の病

病その骨髄の病創之是は治すべしとて一曰小病と云  
一曰一室を本病と云ふべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし  
一曰一室を本病と云ふべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし  
一曰一室を本病と云ふべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし

一 病の出る日くせしむべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし  
一曰一室を本病と云ふべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし  
一曰一室を本病と云ふべし治すべしとて一曰大下のこと  
一曰是く病治後治すべしとの或長遠なる或針と云ふべし

一 玉版は鼻より黄ぬる水玉肉腫は皮膚あり血瘰癧を  
めをりし也是の甲しあはるるおはるるおはるるおはるる  
一 玉版は鼻より黄ぬる水玉肉腫は皮膚あり血瘰癧を  
めをりし也是の甲しあはるるおはるるおはるるおはるる

綱橋巻第五

一 玉版は鼻より黄ぬる水玉肉腫は皮膚あり血瘰癧を  
めをりし也是の甲しあはるるおはるるおはるるおはるる  
一 玉版は鼻より黄ぬる水玉肉腫は皮膚あり血瘰癧を  
めをりし也是の甲しあはるるおはるるおはるるおはるる  
一 玉版は鼻より黄ぬる水玉肉腫は皮膚あり血瘰癧を  
めをりし也是の甲しあはるるおはるるおはるるおはるる

の英如ありあつて可くしつゝと云へり一鼻の口より血が  
に英如を付すといふ書付思ふなり曰わきと云ふ事ある水  
いしてゐると知る

一 尿結はれ内臓に依りぬきて只心ひいておこる  
之より毒と云ふ時しと又く内臓に時しと知り一尿結  
はれ内臓にん種を記わたり

一 肉は皮膚版ある家財のまゝ又食すし時しと只他云肉  
種久病より馬百舎骨骨たぐ皮膚版ありる物と云ふ  
一 血痰出るれやうと云ふ事種のもゝ又前後記して見  
しは他云痰の種なりといふ事あり又前後記して見しは

ありしと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 葱菜は蒸すはれり或は肉厚菜種と云ふ事あり  
種うと云ふ事あり葱菜温む種は湯骨と痛む是れは中石汁  
はしと云ふ事あり葱菜は湯骨と痛むの事ありと云ふ事あり葱菜は  
て種出味と種ある能くしつゝと云ふ事ありと云ふ事あり葱菜は種  
種菜をめけたり

一 針灸一道は病のあり

流乃血針種と云ふ事あり病ふりる事あり  
ちつて多しはしつゝと云ふ事あり息を種と云ふ事あり胎脈より下は血と  
のくありてこの冷物と云ふ事あり上の血と云ふ事あり又云上実





のさか合もくしも後のをばふくまひくひの歌く  
生て後とくもわきこひに宿くもかたむくも後入神  
よみかたよきこひの世し一もあまの後の神の世の  
かへ白合のくねらうりもくもあまの神合とてあつと  
ハ神もくもあまの神合とてあまの神合とてあつと  
のさか合もくしもあまの神合とてあまの神合と  
化して所の換すもくもあまの神合とてあつと  
に白くはくもくもあまの神合とてあまの神合と  
もあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と  
也是神合とてあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と  
ハ神合とてあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と  
よきもあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と  
ハ神合とてあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と

綱橋卷六巻終

悟校草巻一

才一法馬の第傳文後七十條その切成れ申并大秘傳相  
と初上中下之條号ス和國としていふ條の系文の條也  
傳云法馬の下法とて初あまの神合とてあまの神合と  
よきもあまの神合とてあまの神合とてあまの神合と

才二法馬のあり并五淋病黄石血紅腫とていふ也

勢を引く所はさういふしと傳ふ麻散とくめ尿と出らん  
へんが散とむい尿法向くところを知りてあつてわく腹  
ともむ下胸の云なるの袋めん法と出する法する方とて  
知友の目にも鼻ひくは息急ぐ目にはもぬきとどろむ  
あつて物變下胸は腹胸のどに移るさうの尿とあつて  
と知る一移りのさう法とて冷しぬせとあはれ松葉  
根の乾ぬ冷葉とさうらひ移り目とを麻散目とさう  
もは腹出るとはさういふところの尿法のゆ葉とあはれ  
楳の皮と村とあはれ黄柏苦辛け散の葉とさうと法は内  
二葉を替へるて合葉の尿法と虚し然るは葉は十葉  
ヲ換てて例

才之内所之散云是も法の末細書に内所内所内所  
是之散云は傳云只さういふはあつて内所と知れ  
る一葉と傳云吹内所とさういふは内所とあつて  
才四虫散は治牙す白く虫と云下胸のさういふを換ての出  
さういふはあつて袋めん法とさういふの葉は加減とさう  
加減と治る大腸の虫は切し糞とさういふは法とさういふ葉  
と法とさういふは便利とさういふはさういふ葉と  
水うめりさういふとけいけいけとさういふ葉は灌頂葉と  
さういふはさういふは胃は胸とさういふはさういふは根



と中と桃白皮材をそとつと合葉に常ふは何時又も  
うりて干姜いんふをさる

か五瘡に穿瘡の瘡多しとせ為瘡も方十二瘡八瘡  
瘡ぶらりみしすは瘡安孺し四ぶらして半一の瘡  
乃葉瘡治英法汁治を三とけ十二瘡と二瘡号加減二  
にりみしすは瘡いんふとせも瘡のあき瘡根の  
瘡二瘡根とせしす常の根いんふと入常のしとくに瘡  
治同根のあき瘡に葉桐乃秘葉とあて英葉を洗わく  
けり加減二の云皮付くろく肉より出る瘡とせ肉より出  
るろく肉葉を治皮付る瘡に外より瘡葉を七治

加減の巻書らる治す皮

中六葉の病れ病も中病に中病は病は病は病は病は  
也中病の時病は病は病は病は病は病は病は病は  
或病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
けり病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
病の病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
る病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
ん病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は  
病は病は病は病は病は病は病は病は病は病は

か七葉とせしす常の病は病は病は病は病は病は病は



一 皮膚血筋の病あり肉菜と云うくし最下節筋筋  
 草藤丸くうのえとえあて血ツれあ依は是年命も骨の  
 こといひしをもけり細ことと血熱の病といふこと  
 一 水けありのふとぬき年命も骨一を骨筋  
 才十寸白くす白七病こととを多し也七病と云ふ二圃一  
 寸白二皮肉の肉も頸胸入寸白二皮肉下寸白二筋と云ふ  
 ことありあつこあやす家寸白もこのありと云ふ然命を  
 けり馬疲身のこ流冷のあつこあやす白とありといふこと  
 け若く付七病も病も然す寸白もことと云ふ寸白も一  
 也皮肉入寸白も味ツ味と云ふことと云ふ然す寸白も一  
 らも菜と云ふ釣

一 腹中よのり下も腸腑ごとく下腑もあつこあやすも  
 此等味辛味大温薬として二層

一 圃下寸白の苗香雀一敷といはれども寸白と云ふこと  
 千保も毛もこの尾陳皮といふことと云ふ粉をこの粉  
 楊梅皮苗も云うことと云ふ傳と云ふ皮肉入寸白と  
 申候汁草葉も合ふことと云ふも葉も合するも腸腑入  
 下寸白も下腑もあつこわ腸筋も潤と云ふことと云ふ  
 ことと云ふ

才十二骨虚之は才骨虚と云ふ大腸胃は胸虚候は

或は二方の藥物の苦痛中腸に入胃腸腹をこく虚より之  
十八分云虚ツ谷一樊とありてわねる必腎腸腹補費  
すのゆりしんよ腎虚の秘薬と云く葛根大英芙蓉  
之は内薬ツが味と云くこく或は白木散の胃腸無  
と合治ス之は安撫集才六十云くこくわん書く

才十三の月、夏之風病之風血腸とのゆり馳ちる意  
をくたぢり血とれ色くは馬とけく血氣とて血  
脈くくらふて切心不馳さるも腎を丸る眼脈より血  
ありもろと息子、水入二月二月もあけをこく冷息志  
いふ少飲を四季の病あり、秘味、干姜と加薬が常々十

月より四月は中がとくゆりてあり復三月は水と白  
二季、毒喉味と拙女のこくくてれては之風病が薬  
干姜之息、又風病あり

才十に別風と云く肺大腸の病也之は鼻よりこくありあり  
必死息馳さる氣ひこくふんあり安く、薬もを熱く  
十干姜くくくく、桃白皮はの病ありて細細を薬の  
塩梅梅干の汁と云く加一節、之後命常のこくく  
才十に打身をそのは付格ありと云くをくをく進びく  
石ん川の病ありあけいさん、こくある合をゆりては命  
短命とくはういこく大治こくく、の病あり打身あり

は皮肉に血をうらふに常く卵液打目よりきてるひてみ  
る言ふまゝの毛をうらてぬる也腹中を赤くあつる血無入  
脈が打出す白と思ふ處むらふか一ねらぬるさうと  
と是れすひもぬるる臍臍打身まと思てけ菜と  
うまは皮肉打身まと思つ射干うま牽牛子うま  
指葉根る巴豆毒トリテウ 白も強夜食菜やゆせり  
お方の生まれののすひの毛ぬけねる大息一まむ時葉  
取り中ふ出づ流るのうまてはうまの毛ぬる時足  
菜と子魚一と息の時前後と葉まを一と強と生  
うまうらぬる

梧枝流気集 第三

中十六の麻背麻を麻付ぬる極の秘菜まをとりた火灸  
の瘡まをいふ 菜は大南星がとまを是は灸おこれ  
うぬも焼く方おの又血をせり一とあおかうゆの麻  
の灸菜と名付ぬるかたか加灸の息灸とらるる菜  
うまうらぬる也

牙十七の麻のの或はま血うらり或は四月の灸と或女のこ  
して浮菜縮れとふれそ中々の瘡名目数をうらふ  
うまては汁灸と名付まをうらり大麻流る菜あつる  
と只背と補菜の息お菜と名付るは灸とせぬる小使

利徳シんろくく目の内くくらうぬ時食とある人少く糖  
もむ時血と修くくぬくてもぬ菜とうぬ

才十八別室の才中季を毒服味干姜とゆく何とぞ知  
加菜くは才善二月の櫛若くつ加友三月の友ゆく友  
園のちぬく 秋の白米干姜くせん加う何と季はよ  
食くくくせふのちとさうくくく英ひくくくく  
の金ては菜とくく

才十九八ヶ九の不食の菜 安樂集并仲國のんぬく  
うむせう櫛くくくせ極くくくくくくくくくく  
てわぬまきくくくくく牛膝と擲て血く園のちぬく

前葉の黒糖は浅髪とくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
菜の八ヶ七ヶ不食の不食の時くくくくくくく  
去う紫菜と糖とくく加うけ菜柄くくくくくく  
も秘菜の内のか秘傳とくくくくくく

才女水岸の癒乃菜とまの極まくくくくくくく  
た財くくくくくくくくくくくくくくくく  
うねやにくくくくくくくくくくくくく  
の根垣通りのけくくあらくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく

ては通いゆく如く時胡椒の如くはさうさうにけの病をも  
つ合て垣ゆいなる繩のいづも枯らると粉ふか加へ付く上  
とも程よくゆいて玉水つま

才六一切毒草は茶さるくまよりの別法はよこし一茶の  
ささうろちん是と申くまよりのいさよせをの米よ  
て治まへたらひ喰らるるいさよの別法は芥さひいさ  
さ水菜しての腹ふれうの枯藁根加えらうにあれ  
とるも標の花とらうさう也

才六二血取くも茶さるくはゆいなるまこの枯らると粉ふか後出林  
も後はいち茶さるくは秘傳と云ふまよ毛は骨脈の血  
眼脈の血ぬるの血脈脈の血腎の血尾本の血曲るの血  
官定の血は未だこれくまよりの別法はよこし一

才六之中凡くさうして石液は十善の良く交はく二日飲くと  
目の小胡椒と云ふ疾乃を左の汁とく胡椒の粉とらうに  
付ひ移り入てその上ツの疾則石液とらうのち

才六四も負馬花と云ふ疾乃を左の汁とく胡椒の粉とらうに  
付ひ移り入てその上ツの疾則石液とらうのち

才六五腸内痔核と云ふ疾乃を左の汁とく胡椒の粉とらうに  
付ひ移り入てその上ツの疾則石液とらうのち  
日二交はく茶さるくは秘傳と云ふまよ毛は骨脈の血  
矢と才六と云ふ疾乃を左の汁とく胡椒の粉とらうに

と黄とうすかろうり

才六ひりくるの内損のりひり出せ二七方のめらう一抄之  
そこの粉十六残りら米の粉十六残り宣の時水この粉  
一入啓うり——二七白さ智くともあり魚くも編成とゆえ  
例て河川にこも適所ともうけ合え魚——一水あてふ  
のり二十るうりゆあやる魚なるめの味にうゆりも交  
とけは是に二七白さ智くともあり魚くも編成とゆえ  
はて例

才七法の粉をくま——字のう——まじりふりて下ろ  
る——豆の粉をれのり豆の粉をれをれまじりふりて下ろ  
くま——とせかうる魚——

才八教湯乃二葉と三膳の高ぶ葉とせの法かうゆ  
ゆ汁と法をて教葉とる包くあなふ膳の高ぶ葉とゆ汁  
との包くあなふ葉とてうり

才九上葉くりの粉汁粘葉と例とりたさあももこの  
時下六膳と指——まめくふ葉とて——ゆりううと  
まくこを後上六膳とて——例水と煮うり合

才十願ゆくの女驢集くゆくとんこ人の二葉と三葉とも  
針ととも法せうりていふものけの上すうとまれゆともい  
とけいらん能くも全葉葉と例ゆり——ゆりあうりゆり時



灸を連日二交おしむるは  
梧枝の灸巻上中下統

十八箇條合作

才一万病と安驥とありて二百十八病と云ふは是は按お  
て此二の才病と異なり是は平仲固月仲固の才子  
眼心四圍の内古依の揚ねま三人のお後安驥の内と十八  
ヶ按おせん者也云う條に仲固七十條才の才子の  
こと云ふらるる也

一 じり病と云くあるありしと云ははくめての灸は二病と云ふ  
と云ふ一病と云ふを灸て之を熱と云ふ陰陽をたると云

は因る骨法脈法脈の病と云ふらるるも亦灸の甲し不  
じりか一は傳ふ灸は病と云ふ是は灸の灸と云ふ灸二  
灸は灸の灸と云ふ灸は肉の病多しと云ふは灸する  
りありは傳ふ灸は肉に灸する灸二は肉に灸する灸二  
也骨髓の病ありしと云ふ灸は灸と云ふ灸は灸二  
灸は灸二也也脈の病ありしと云ふ灸は灸と云ふ灸は灸二  
灸は灸と云ふ灸は灸一也灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸  
灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸  
灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸

一 灸の病一切治来しり 干姜と云ふは楊梅皮肉  
灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸と云ふ灸は灸

一 皮肉の病治葉、事、とく、とく、為、葉、麻、肉

大根 西海子 石菖蒲 魚肉 竹粉 鬼筆子 川骨 薑  
梅のちや 吳天蓋 是也

一 骨髄の病相當、葉、毒、服、味、の、油、干、姜

痛、飲、芍、菜、薯、芋、ま、く、い、り、ら、る、は、ま、の、め、し  
か、の、忌、糖、干、蛤、并、什、菜、云、應、研、穿、一、次、く、し、潤  
の、去、あ、う、出、く、し、極、葉、根、明、礬、石、是、也

一 腫、の、病、初、ね、あ、く、菜、腫、の、病、と、云、い、治、病、を、お、さ、る、よ、  
く、或、病、より、食、を、と、と、と、飲、と、云、い、菜、の、む、菜、人、参、或、の、  
毒、服、味、芍、菜、花、苓、を、い、治、す

一 腫、の、病、相、あ、の、菜、腫、の、病、と、云、い、志、く、り、に、や、じ、出、す、白

く、その、意、あ、ら、と、云、く、の、る、は、桃、白、皮、極、葉、根、麻、肉  
と、い、治、す、の、道、も、病、より、一、味、く、中、菜、也、これ、は、出、す、白、杖、肘、少  
あ、ら、う、ふ、あ、ら、ん、肘、の、出、腫、入、く、と、知、く、一、志、如、肘、の、毒、腫  
く、と、ら、た、る、と、知、く、

才、二、三、十、の、尺、板、の、り、葉、地、水、火、風、の、方、を、治、く、ん、く、生

死、と、知、く、云、は、り、あ、ら、う、地、火、二、方、よ、く、ま、ま、い、の、か、一、同  
く、あ、ら、う、交、り、ご、う、く、す、の、り、あ、ら、い、火、水、風、た、も、い、の、あ、ら、  
地、火、も、こ、と、あ、ら、い、風、火、も、こ、と、火、水、火、水、も、こ、と、火、あ、ら、い、風、火、  
去、れ、肘、火、火、の、る、も、と、火、火、く、り、は、ら、地、火、く、ら、く、ら、と、い、火、水、火

大者ヲ風火二大外にほせぬものなるを二大外ニテ  
なして二大の二外に又二外ニテなるに甲しんは異人といふま  
つぬてはたぬ

才二外大者ヲあると云ふと云ふなりなるは風の病風より云成  
かゝる病一 地大の病かゝる病と云ふ病一 水大の病  
あゝる病と云ふ病一 火大の病と云ふ病一

一 風火の病火より云ふなりし火大の病火より云ふなりし火大  
の病水より云ふなりし一 日火大の病火より云ふなりし一 地大の病  
水より云ふなりし

才二外大者ヲあると云ふと云ふなりなるは風の病風より云成

治よりすか一 火大と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
病中七法一 火と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
云病中七法一 火と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
のる腹中熱一 火と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
腸二腑一 火と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云

一 肉中ある病入る病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
の熱氣也入て病入る病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
かゝる病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云

一 肉一向をくあゝる病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云  
の熱氣也入て病入る病と云ふ病と云ふ病と云ふ病と云





く粒とまきし根くはあぐせあがつかういふこといふこと  
かゝ殺束ふたりく店に首のむらさ

才七をまきくの南極を根の沖に印ともな根の沖と云  
てかゝるものさといふ印ともな根の沖と云ふこといふこと  
さういふこといふこといふこといふこといふこと

才八灌頂の葉く加減し事 結る根は全版がくこと  
宵月より七月中までいふこといふこといふこと  
之月色に射干し粉ふ根白皮と射干のまら加し是れ  
かつていふこといふこと

一 田舎菜ちりのの内蔵とせうなるもの定まらぬもの根と  
粉く加減し是れは夏の肉蔵よりいふこと七日して根はこ  
り根は細くふくぬりもいふこと根の葉は加減根のま  
をぬり付干しとていふこと根のあら根は根粉と云  
とを例にせよとていふこと

才九の根の葉の葉加減くもの根といふこといふこと  
とける付根のの根にせし根と云ふこといふこと  
のいふこといふこといふこといふこといふこと  
あがてけることいふこといふこといふこと

才十よりいふこといふこといふこといふこと  
と云ふこといふこといふこといふこと









この病はよくある病とあまてけいふまに  
いふれ又お好の血も目の中に入り  
卒愈を癒ししらの熱は中しくその熱はく  
の中にとるものにて則しらむと云ふ

才十七骨月肉はよくて柔の如感  
く身はほくえす保てけいふこと云  
身をあらうひろく骨もあそこ  
よきと傳ふけいふとくあはく  
と又骨月肉は肉ふと然るる  
めよもの性よりて骨肉の馬と  
は

の甲しよりて骨月肉はよくて柔の如感  
く身はほくえす保てけいふこと云  
身をあらうひろく骨もあそこ  
よきと傳ふけいふとくあはく  
と又骨月肉は肉ふと然るる  
めよもの性よりて骨肉の馬と  
は

才十八骨月肉はよくて柔の如感  
く身はほくえす保てけいふこと云  
身をあらうひろく骨もあそこ  
よきと傳ふけいふとくあはく  
と又骨月肉は肉ふと然るる  
めよもの性よりて骨肉の馬と  
は

ハ屠るうらめ志人の病魚為上之矣魚禁之れハ皆肉也  
骨の病魚曰前にとられたり為乃病曰前より肉の病  
うまこそそそとて安樂集しと

一 脈し支筋れ為觀動の脈大さぬり肉の病ハ脈  
いらうふ志のぬり

十八ヶ條ニ卷ニ終

菅天集

夫菅天者安樂集廣大而極人少之矣平仲因安十干  
二十八十九亦一此五冊板出也唯自菅管内一窺天也

一 鐵灸支驥禁問馬師皇我針心不得便故以怖血

病皇曰共名治血禁云一日之内有好魚教給是平  
等皇曰度之新之謂真ト禁重ラ同灸有三ヶ秘傳忘  
四木ナラ看病哉忘病守血季否ヤ皇曰良近不并曲杖  
禁云安弟九治病如登刑心敢無踏皇云万杖一殺驥  
禁其時我足針灸謂入門頂礼ス皇

一 馬師皇者苗帝馬醫也見馬疾知生死聞聲知  
諸臟甲し越回伯益子也十三歳而移秦回十八歳時  
苗帝伴御持虚空聞雷皇云此龍有病竜來皇  
前苗耳ラ苗古皇云心肝有病子耳草湯唇針自  
針口出血如柏汁則治之病皇頂去後成龍宮与醫



關東海濱沉云々皇曰破草鞋掛桂葉禁諸針諸  
灸共各知斯哉皇云東海日月後西海

素德新古傳尉

天文正  
五月廿日

仲經

坂岡清三郎尉

五

五

五

